

美術科の研究の概要

◇ 主題

造形要素と作品の背景とを関係付けた対話型の鑑賞を通して、
表現力や鑑賞力を高める授業

◇ キーワード

対話型の鑑賞
造形要素
作品の背景



田代 豪



◇ 育てたい生徒像

造形要素と目に見えない作品
がつくりだされた背景を関係付
けて、複雑な思いを表したり、感
じ取ったりして、新しい価値をつ
くることができる生徒

1 題材名 鑑賞「舟越桂 私の中的スフィンクス」（2年）

2 目標

- 舟越桂作品の造形要素（形、色彩、素材、作品タイトル）と作品展示の意図を関係付けて鑑賞することを通して、作品の見方や考え方を深めることができる。
- 作品の造形要素と作品の背景を関係付けて批評することを通して、舟越桂作品の見方や考え方を広げ深め、人間をテーマにした作品に新たな価値をつくりだすことができる。

3 具体的な手だて

1. 意味ある文脈での課題設定

授業の実際

美術館で作品鑑賞と学芸員のギャラリートークを併せて組織する。

同一作家の過去の作品と近年の作品を提示する。

同じ作家なのに何でこんなに変わったの？

作品の大きな変化に関心もつ。



『冬の本』



『もうひとりのスフィンクス』

実物の作品を目の当たりにしてさらに問いが生まれる。

実物の作品を見てみたい。

「雪のヒの影」
 ↳なんでも2人なの。ふたご？？
 手がないものが多い。

【最初に作品を見た印象と問い】



【学芸員によるギャラリートーク】

新たな鑑賞の視点を獲得する。

課題

舟越桂作品には作者のどんな思想や感情が含まれているのだろう。



【新たな鑑賞の視点を得て再び作品の鑑賞】

2. 対話を促す工夫

生徒の交流した意見が可視化できる環境を整備する。

授業の実際



4人グループで1枚の模造紙を使い、中央に選んだ作品の写真の貼り付け、意見を書き込んでいく。

3. メタ認知を促す工夫

授業の最初の作品の読み取りと最後の読み取りが比較できるワークシートを提示する。

授業の実際

授業の最初のワークシート

作品「冬の本」
 何を考えられているのか分析ない
 ↳無表情。
 ↳こが冬？
 本を読んでいるのではなくて
 読んでもらっている？？

授業の最後ワークシート

「冬の本」
 ↳目の焦点が合めな
 ↳遠い目
 ↳自分が一番見えない(遠い)。
 「雪の上の影」
 ↳2人で支えあおう。
 ↳親子 (団) 27
 ↳雪の上の影
 ↳社会の冷たさ、厳しさ